



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月1日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <https://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 グループ経営管理本部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	20,099	68.1	2,830		3,055		1,994	
2022年3月期第2四半期	11,958	51.3	1,418		480		282	

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 2,044百万円 (%) 2022年3月期第2四半期 277百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	64.09	
2022年3月期第2四半期	9.08	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	28,511	21,437	75.2	688.90
2022年3月期	27,470	20,356	74.1	654.15

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 21,437百万円 2022年3月期 20,356百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		30.00	30.00
2023年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,920	33.3	6,140	337.7	6,384	118.5	4,175	117.9	134.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) Honey Sucrey Limited
詳細は、添付資料P8「2.四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	31,121,520 株	2022年3月期	31,121,520 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	2,279 株	2022年3月期	2,208 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	31,119,280 株	2022年3月期2Q	31,119,331 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について) 四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結範囲の変更又は持分法適用の範囲の変更)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(四半期連結貸借対照表関係)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、7月中旬から8月にかけて新型コロナウイルス感染症の陽性者数の再拡大があったものの、3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークや夏季シーズンを迎え、人流は総じて回復基調となり、持ち直しの兆しも見られました。一方、新型コロナウイルス感染症に対する潜在的な不安に加え、原材料価格やエネルギー価格の高騰による物価上昇などにより、消費マインドの冷え込みが懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、日本中の人々の幸福と日本経済復活に貢献すべく、2022年経営スローガン「全日本リバイバル宣言」を掲げ、「プレミアム・ギフトスイーツ」の更なる美味しさの追求と品質の向上に拘り、売場徹底拡大、販売力徹底強化、年間イベント対策による需要喚起、インバウンド復活に向けた準備などの重点施策を推進いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は20,099百万円（前年同期比68.1%増）、営業利益は2,830百万円（前年同期は営業損失1,418百万円）、経常利益は3,055百万円（前年同期は経常損失480百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,994百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失282百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① シュクレイ

シュクレイは、更なるブランド認知度の向上に向け、主力商品対策に注力するとともに、新商品及び限定商品の発売や季節イベント対策の強化、期間限定出店の推進などに取り組みました。出退店では、4月に阪神梅田本店に“チーズ with ハニー”をコンセプトにしたスイーツを展開する新ブランド「DROOLY（ドローリー）」を、9月にあべのハルカス近鉄本店に「ザ・マスターbyバターパトラー」を出店するなど、計4店の出店及び2店の退店を行いました。その結果、売上高は8,002百万円（前年同期比88.0%増）、営業利益は1,223百万円（前年同期は営業損失402百万円）となりました。

② ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、道内店舗では、ルタオ周年祭の開催や店舗限定スイーツの発売などによる集客力の強化に努めました。道外店舗では首都圏で展開している「PISTA&TOKYO（ピスタアンドトーキョー）」、「Now on Cheese♪（ナウオンチーズ）」、「岡田謹製あんバター屋」において、主力商品対策の強化、限定商品の発売及び期間限定出店などに取り組みました。通信販売では、季節イベント対策の強化に注力し、また、自社ECでは、名前や住所を知らない相手にも気軽にギフトを送れる新サービス「ルタオeギフト」を導入し、お客様の利便性の向上を図りました。その結果、売上高は5,535百万円（前年同期比34.8%増）となり、営業利益は450百万円（前年同期は営業損失274百万円）となりました。

③ 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、旅行土産需要の回復に備え、代理店及びグループ会社と連携強化を図り、新商品開発などに注力いたしました。また、山陰地区では、主力商品「因幡の白うさぎ」の対策強化、「お菓子の壽城」ではイベント開催などによる集客力の強化に努めました。新規事業では、沖縄・国際通りにパインスイーツ専門店「newQ（ニューキュー）」を出店するなど新たな販路開拓に取り組みました。その結果、売上高は4,390百万円（前年同期比82.3%増）、営業利益は628百万円（前年同期は営業損失316百万円）となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、交通拠点チャネルを重点に、主力商品対策の強化などに注力いたしました。エリア別では、関西地区で新商品「大阪はちみつクワトロフォルマッジ」及び本家佳長「八坂圓堂監修京野菜てんぷらせんべい」の発売による売場獲得に注力し、岡山地区では新商品「天使の恋 白桃のチーズケーキ」を、東海地区では新商品「小倉トーストチーズケーキ」など自家需要対策として、冷凍ケーキの拡販にも取り組みました。その結果、売上高は2,289百万円（前年同期比101.1%増）、営業利益は132百万円（前年同期は営業損失191百万円）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、長崎及び福岡地区において主力商品「九十九島せんべい」の対策強化、40周年を迎えた赤い風船「はなかご」のリニューアルによる販売強化などに注力いたしました。また、フレンチトースト専門店「アイボリッシュ」では、「フレンチトーストフィナンシェ」などのギフト商品による期間限定出店を推進いたしました。その結果、売上高は1,847百万円（前年同期比77.0%増）、営業損失は1百万円（前年同期は営業損失392百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれております。売上高は325百万円（前年同期比48.7%増）となり、営業利益は35百万円（前年同期比850.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、28,511百万円となり前連結会計年度末と比べ1,041百万円増加いたしました。

主な要因は、現金及び預金の増加（831百万円）、商品及び製品の増加（399百万円）、流動資産におけるその他の増加（159百万円）、受取手形及び売掛金の減少（154百万円）、機械装置及び運搬具（純額）の減少（140百万円）などによるものです。

負債は、7,073百万円となり前連結会計年度末と比べ40百万円減少いたしました。

未払金の減少（271百万円）、長期借入金の減少（119百万円）、未払法人税等の増加（137百万円）などによるものです。

純資産は、21,437百万円となり前連結会計年度末と比べ1,081百万円増加いたしました。

主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による増加（1,994百万円）、配当金の支払いによる減少（933百万円）などによるものです。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.1ポイント増加し75.2%となり、1株当たり純資産は688円90銭となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ831百万円増加し、10,743百万円（前期末比8.4%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、2,180百万円（前年同期比128.7%増）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益3,051百万円、非資金項目であります減価償却費551百万円の増加要因があった一方、法人税等の支払額が△904百万円、棚卸資産の増減額が△489百万円となったことなどによる減少要因によります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、302百万円（前年同期比20.2%増）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出が262百万円となったことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,055百万円（前年同期比0.0%増）となりました。

主な要因は、配当金の支払額933百万円、長期借入金の返済による支出119百万円などの減少要因によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、上期は、期初予想を上回ったものの、今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症に対する潜在的な不安に加え、物価上昇などにより消費マインドの冷え込みが懸念されるなど、以前として先行き不透明な状況が続くものと予想されており、下期の業績予想は売上面・利益面ともに期初予想を据え置いております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,912,584	10,743,838
受取手形及び売掛金	3,767,856	3,613,098
商品及び製品	1,416,694	1,816,162
仕掛品	37,905	51,971
原材料及び貯蔵品	540,832	618,524
その他	128,925	288,461
貸倒引当金	△299	△336
流動資産合計	15,804,497	17,131,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,006,807	3,893,505
機械装置及び運搬具(純額)	2,031,524	1,891,508
工具、器具及び備品(純額)	296,244	285,900
土地	2,855,362	2,855,157
リース資産(純額)	8,144	6,922
建設仮勘定	9,471	2,997
有形固定資産合計	9,207,552	8,935,989
無形固定資産	142,219	130,010
投資その他の資産		
その他	2,321,415	2,319,203
貸倒引当金	△5,250	△5,250
投資その他の資産合計	2,316,165	2,313,953
固定資産合計	11,665,936	11,379,952
資産合計	27,470,433	28,511,670
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	922,666	977,491
1年内返済予定の長期借入金	239,880	239,880
未払金	952,012	680,359
未払法人税等	908,371	1,045,942
賞与引当金	767,274	815,426
その他	830,216	895,427
流動負債合計	4,620,419	4,654,525
固定負債		
長期借入金	485,980	366,040
退職給付に係る負債	1,815,031	1,865,151
その他	192,302	187,979
固定負債合計	2,493,313	2,419,170
負債合計	7,113,732	7,073,695

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	17,799,692	18,831,515
自己株式	△4,158	△4,685
株主資本合計	20,336,495	21,367,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,980	10,222
為替換算調整勘定	△6,118	39,238
退職給付に係る調整累計額	20,344	20,724
その他の包括利益累計額合計	20,206	70,184
純資産合計	20,356,701	21,437,975
負債純資産合計	27,470,433	28,511,670

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	11,958,758	20,099,935
売上原価	6,118,171	8,328,774
売上総利益	5,840,587	11,771,161
販売費及び一般管理費	7,258,828	8,940,831
営業利益又は営業損失(△)	△1,418,241	2,830,330
営業外収益		
受取利息	77	64
受取配当金	2,366	3,440
受取地代家賃	26,726	25,873
助成金収入	889,520	177,209
その他	25,343	22,712
営業外収益合計	944,032	229,298
営業外費用		
支払利息	659	286
その他	5,982	4,331
営業外費用合計	6,641	4,617
経常利益又は経常損失(△)	△480,850	3,055,011
特別利益		
固定資産売却益	309	190
関係会社清算益	—	2,277
特別利益合計	309	2,467
特別損失		
固定資産除却損	3,109	5,919
投資有価証券売却損	—	400
特別損失合計	3,109	6,319
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△483,650	3,051,159
法人税等	△201,055	1,056,702
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△282,595	1,994,457
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△282,595	1,994,457

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△282,595	1,994,457
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△243	4,242
為替換算調整勘定	2,722	45,356
退職給付に係る調整額	2,790	380
その他の包括利益合計	5,269	49,978
四半期包括利益	△277,326	2,044,435
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△277,326	2,044,435

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△483,650	3,051,159
減価償却費	599,648	551,472
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△527	37
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,695	48,152
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	57,701	50,697
受取利息及び受取配当金	△2,443	△3,504
支払利息	659	286
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△8,675	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	400
固定資産売却損益(△は益)	△309	△190
固定資産除却損	3,109	5,919
助成金収入	△889,520	△177,209
関係会社清算損益(△は益)	—	△2,277
売上債権の増減額(△は増加)	998,643	158,712
棚卸資産の増減額(△は増加)	△201,262	△489,159
仕入債務の増減額(△は減少)	△408,509	54,712
その他	134,497	△358,385
小計	△197,943	2,890,822
利息及び配当金の受取額	2,443	3,504
利息の支払額	△659	△286
助成金の受取額	930,071	191,049
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	219,509	△904,931
営業活動によるキャッシュ・フロー	953,421	2,180,158
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却による収入	—	600
有形固定資産の取得による支出	△215,827	△262,010
有形固定資産の売却による収入	2,727	3,701
無形固定資産の取得による支出	△9,291	△11,485
敷金及び保証金の差入による支出	△14,929	△8,252
敷金及び保証金の回収による収入	7,165	16,068
その他	△21,287	△40,946
投資活動によるキャッシュ・フロー	△251,442	△302,324
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△119,940	△119,940
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,222	△1,222
自己株式の取得による支出	△306	△527
配当金の支払額	△933,580	△933,579
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,055,048	△1,055,268
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,522	8,688
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△349,547	831,254
現金及び現金同等物の期首残高	7,309,405	9,912,584
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,959,858	10,743,838

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、Honey Sucrey Limitedを連結の範囲から除いております。

(連結の範囲から除いた理由)

第1四半期連結会計期間において清算手続中であったHoney Sucrey Limitedは、総資産、売上高、当期純利益及び利益剰余金等から見て、連結の範囲から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体として重要性がないため、連結の範囲から除外しております。なお、当該連結子会社は、当第2四半期連結会計期間において清算結了いたしました。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

(当座貸越契約)

当社及び連結子会社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当第2四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
当座貸越極度額の総額	7,800,000千円	7,800,000千円
借入実行残高	—	—
差引額	7,800,000千円	7,800,000千円

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

当第2四半期連結累計期間においては、前連結会計年度の有価証券報告書の「重要な会計上の見積り」に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りの仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	4,132,725	4,007,810	1,664,216	1,124,902	810,339	11,739,992
セグメント間の内部売上高又は振替高	124,640	99,104	744,084	13,377	233,081	1,214,286
計	4,257,365	4,106,914	2,408,300	1,138,279	1,043,420	12,954,278
セグメント利益(△は損失)	△402,597	△274,746	△316,700	△191,513	△392,318	△1,577,874

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	218,766	11,958,758	—	11,958,758
セグメント間の内部売上高又は振替高	412	1,214,698	△1,214,698	—
計	219,178	13,173,456	△1,214,698	11,958,758
セグメント利益(△は損失)	3,787	△1,574,087	155,846	△1,418,241

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾及び香港)における菓子事業が含まれております。なお、香港事業は、現在、清算手続中であります。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額155,846千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額414,746千円、セグメント間取引消去額4,969千円、棚卸資産の調整額1,327千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△265,196千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	7,783,728	5,321,324	3,022,091	2,266,744	1,380,363	19,774,250
セグメント間の内部売上高又は振替高	218,515	214,341	1,368,235	22,355	466,816	2,290,262
計	8,002,243	5,535,665	4,390,326	2,289,099	1,847,179	22,064,512
セグメント利益(△は損失)	1,223,283	450,713	628,071	132,236	△1,497	2,432,806

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	325,685	20,099,935	—	20,099,935
セグメント間の内部売上高又は振替高	213	2,290,475	△2,290,475	—
計	325,898	22,390,410	△2,290,475	20,099,935
セグメント利益(△は損失)	35,978	2,468,784	361,546	2,830,330

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、損害保険代理業、健康食品事業、並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。なお、前連結会計年度まで「その他」のセグメントに含まれ、第1四半期連結会計期間において清算手続中であった香港事業会社Honey Sucrey Limitedは、総資産、売上高、当期純利益及び利益剰余金等から見て、連結の範囲から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体として重要性がないため、連結の範囲から除外しております。(当該事業会社は、当第2四半期連結会計期間において清算終了いたしました。)

2. セグメント利益(△は損失)の調整額361,546千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額673,060千円、セグメント間取引消去額5,218千円、棚卸資産の調整額△34,353千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△282,379千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。